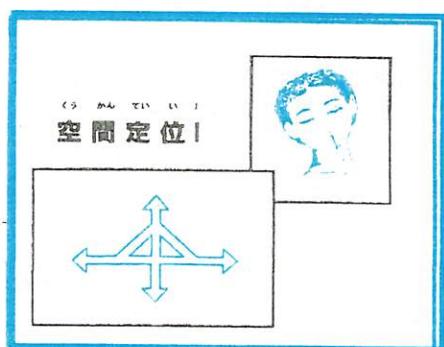


フォイヤーシュタイン認知能力強化教材 IE-I

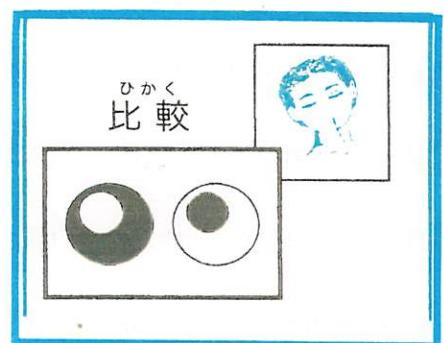


最初に取り組む課題。

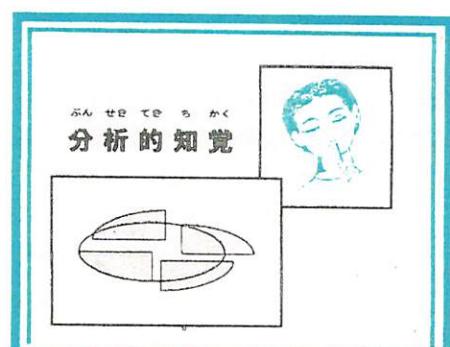
*18ページからなる課題には、雲のように点が散らばっています。生徒たちは見本と同じ形をつくる点をみつけなければなりません。混沌としていた点群が組織化され秩序が生まれます。学習者は、衝動性をコントロールし、計画をたて、仮説を立て、柔軟に論理の基礎を養い、考える習慣を育て、学習の方法を身につけていきます。課題はページを追う毎に難しくなりますが、学習者は楽しみながら認知の力を育て、難しい課題と取組み、解決法を見いだし、達成感を体験し、積極的な意欲と自信を育てていきます。



他の教材に比べるとページ数は少ないのですが、非常に大切な課題です。具象から抽象へと段階的に難しくなっていきます。空間に配置された人や事物間の関係が相対的に変化する有様を頭の中にイメージする力が求められます。媒介体験を経て、学習者は自分以外の視点から物事を観ることを可能にしていき、脱中心化のプロセスが促進されます。また、論理的に考える豊かな機会をもち、判断の自立性が養われていきます。難しいと感じる学習者も多い課題ですが、難しさに挑戦しようとする態度を身につけていきます。



言語、絵画、記号、いろいろな表現形式で問われる課題です。学習者は、比較の基準をしっかりと自分の中に設けることを意識し、事象間の共通点と相違点を考え、自発的な比較行動を習慣化していきます。学習者には複数の情報を同時に扱う力が育ち、分類活動の基本と成る上位概念が育成され、抽象的な思考が可能になっていきます。



複雑な構造を分析的に捉えるための課題です。全体を部分にわけ、部分を全体に統合していく認知の働きを身につけていきます。世界を認知するとき、自分の内側にも外側にも参照点をみつけることができるようになり、思考の柔軟性を身につけていきます。教材を通じて学習したことを日常の教科学習や生活のなかに生かしていくような媒介が教師の大切な役割です。数学においても、語学においても、構造の分析や時間的因素を含む操作分析は威力を発揮する認知の働きです。